

平成29年度第1回稲沢市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成29年7月20日（木）午後2時～3時17分

2. 場 所 稲沢市役所 3階 議員総会室

3. 出席者

市 長 加藤 錠司郎

教 育 長 恒川 武久

教 育 委 員 青 井 博 藤 田 美知子

中 寫 克 佳 野 村 春 子

教 育 部 長 遠藤 秀樹 教育部調整監 服部 清久

部次長兼庶務課長 岩田 勝宏 庶務課主幹 長谷川 隆

学校教育課長兼指導主事 服部 高志 学校教育課統括主幹兼指導主事 吉田 雅仁

生涯学習課長 内藤 幸蔵 スポーツ課長 長崎 真澄

図 書 館 長 前橋 桂子 美 術 館 長 山田 美佐子

書記 庶務課 西村 純

4. 欠席者

教 育 委 員 内藤 晶仁

5. 傍聴人の数 5人

6. 協議・調整事項

(1) 教員の多忙化解消プランについて

(2) 新学習指導要領について

(3) その他

7. その他

－ 開 会 －

●教育部長

それでは、平成29年度第1回稲沢市総合教育会議を開会します。はじめに、

加藤市長からごあいさつをいただきます。

(市長あいさつの後)

●教育部長

本会議は、稲沢市総合教育会議設置要綱第5条により市長が議長を務めることとなっておりますので、以下の会議の取り回しについては、加藤市長にお願いいたします。

◎市長

それでは、2. 協議・調整事項に入ります。「(1) 教員の多忙化解消プランについて」、事務局から説明をお願いします。

●学校教育課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ただいま事務局から説明がありました。ご意見がありましたらお願いします。

○委員

いろいろ説明を聞きまして、今後に向けて取り組んでいくことが少し分かったと思います。今お話がありました部活動に関わることですが、愛知県の学校とかみていますと、外部指導者に頼るところが多い学校が増えているのではないかと感じています。その外部指導者を取り入れることについて、学校の先生との関わりとかがどういうふうになっているのかという細かいことはまだまだこれから検討していったほうがよいのではないかと思います。部活動をやっているところは少なくなってきた中で、やりたいなと思っている先生もいるのではないかと思いますので、一概に外部指導者に切り替えていくのはどうなのかなと思います。

また、中小体連等の協力を得て秋の大会のあり方についてということで、どのような仕組みなのかよく分からなかったもので、説明いただけたらありがたいと思います。

◎市長

2点ほど話がありました。1つは、外部からの指導者と教員の方々との関わりはどうかということ、それから、中小体連との協議の中で秋季大会のあり方を検討するということは具体的にどうですかという質問の2点について答えていただけますか。

●学校教育課統括主幹

外部指導者に関しまして、現在中小体の事務局で把握している人数は、12名が校長の承認を得て登録をし、指導に携わっていただいております。顧問の

先生と外部指導者の方との関係につきましては、当然校長が承認するというこ  
とで教育活動の一環であるということを十分に理解していただいて、学校の子  
どもたちが充実した活動ができるようにということで顧問と連携を取りながら  
取り組んでいると把握しております。

中小体で秋季大会のあり方を見直していくという話につきましては、実は10  
年、20年前の部活動の大会というのは、種目によってどの部も大会がたくさ  
んあるというわけでもなく、だんだん大会が増えてきたという部がいくつかあ  
ります。例えば野球を例に挙げますと、9月と11月に連盟・協会の大会があ  
ります。その間の10月に中小体の大会もあります。新チームになって、とに  
かく大会が続けざまにあたりして、生徒への負担も教員への負担も、大会あ  
りきでリフレッシュする時間もなかなか取れないです。卓球でいいますと、中  
小体の大会と協会と組んでいただいている卓球大会がちょうど10月の連休で  
続けてあるようなことも現実にございます。各部それぞれに違いますが、それ  
ぞれの部で一番活動しやすい時期や大会のもち方を一度ゼロベースにして検討  
してみてもどうだろうということで、昨年、中小体の事務局が現場の先生方に  
話を持ちかけました。今年度の8月の段階で、それぞれの部が望ましいあり方  
を報告するという形で現在進んでおります。

#### ○委員

子どもたちの放課後の部活動というのは、すごく生活の中に大きなウェイト  
を占めていると思います。ですから、あまり削るとということよりも、むしろ外  
部指導者の方へ昔のお稽古みたいな感じで、ある程度先生方の負担を少し外し  
たらどんなものなのか、それは学校の教育現場では影響が大きいのでしょうか。  
そうすると先生方は時間内で収まり、時間外は外部の指導者の方にとすると、  
かなり経費が掛かって大変なのかがよく分かりませんが、ただ削るとするのは、  
子どもたちにとっていかなものかという気がします。

#### ◎市長

部活の時間は子どもたちにとっても大切なものだから、先生の負担軽減にな  
る範囲でいろいろな方の協力を得たらどうかという話だと思います。

#### ●学校教育課統括主幹

ただいまお話をいただいたように、教員の負担も減り、なおかつ生徒が活躍  
できる場というものが地域の中であるというあり方が一番望ましいあり方であ  
ると私も考えております。学校も部活動の意義というものは大変認められてい  
る部分もあります。生徒の多くは、本当に打ち込んで自分自身の人生の経験の  
中で良い経験をしている生徒も多くいます。ただ、児童数生徒数の減少により、

教職員数の配置などの影響でどの部もうまく指導のできる教員が配置されているわけではないというのも現実であります。地域で生徒の活動を支えるような受け皿という表現がいいかどうか分かりませんが、そういった制度ができるということは本当に望ましいことだと思います。現時点で、教育委員会で具体的に整備について取り組めるかどうかについては未定の部分であります。

◎市長

部活のところで話がだいぶ偏っているようでございますけど、その他の多忙化解消について何かご意見ありますでしょうか。

○委員

長時間労働の時間の具体的な数字を先程お聞きして、私は会社を運営しておりますが、非常にびっくりしました。4割近い方が月80時間を超えられている実態は、現状の我々働く企業からすると完全に査察が入る状況です。100時間を超えている方が稲沢で19%という実態を改めてお聞きすると、ちょっと普通の状態ではないなと思いました。我々の企業も含めて、何を具体的にやっているかといったときに具体的な数字を、我々の場合は月45時間という数字を設定しております、それに向けて45時間の中で何ができるのか、何をどうしていくかということを経営の中で進めておりますし、世の中の企業において、大企業は特にそうなのですが、それに向けてどういうふうにしていくか必死になって皆やっております。ただ、今までのロジックといいますか、その積み上げてきた中でただの時間削減では全くもって業務をこなせなくなるというのを目に見えております。ではそこで何をするのか、一人一人の労働生産性を絶対上げないといけないというところに直面しているわけですが、これについて具体的に何をどう使うかというアイテムを何があるのか今お聞きしたときに、校務支援システムというものが一つございます。それと、専門スタッフとか教職員の増員、こういったものが具体的に挙がっているところが見えてはいますが、具体的にどうやって使って、これがどう削減になるのかというのは費用的な問題も発生します。増員するといってもコストの問題が当然出てきますし、予算の関係もあるかと思いますが、その辺がまだ見えない部分があるのかなと思っております。やれるところについては今の世の中、我々の製造業でいくと、この間市長さんがおっしゃっていたようにインダストリー4.0の話ではございませんけど、産業革命的な部分のアイテムを、AIも含めて活用しながら省力化をしていくというところを目指しております。そして一人一人の生産性を上げていくということを一生涯懸命頑張っているんですけど、そういったことに関して学校教育の中で一体それがどこまでどういうふうにするのか、企業とはや

はり違いますので、どのようにやっていくのかというところは私が聞いているところでまだ見えない部分があるのかなど。それともう一点、学校教育の中の問題だけではなくて、地域、家庭環境においてどう共同していくのかが後まだ見えないところです。これから先、それを詰めて進めていくと思うのですが、具体的に何かどこかまで、こういう思いとか考えがある話であればお聞かせいただきたいと思います。

#### ◎市長

企業経営者としてのお立場からのご意見をいただいたわけではありますが、まず、取組の柱の4番目の校務支援システムの活用、この校務支援システムとはどのようなものかということと、それから専門スタッフ等の配置とありますが具体的にどのようなものを想定しているのか説明をいただけますでしょうか。

#### ●学校教育課長

校務支援システムにつきましては、平成28年度の10月より稲沢の全小中学校に入れていただきました。教員全てのパソコンに繋がっており、その中でもいろいろなパッケージ、商品があります。一つは掲示板といたしまして、連絡板のような形で、今までは黒板に書いたり打ち合わせを行ったりして連絡を取り合っていたものを、必要な人間が書き込みをし、それを他人等が見て連絡をするということで、掲示板を朝見ることによって打ち合わせの時間を減らすといたことで掲示板を活用させていただいております。それから学校の中でよく使われるものとしたしましては、出席簿、子どもたちの出席状況とか給食実施簿ということで給食の実施および状況についても記録をしなければいけませんのでそういったもの、それから指導要録ということで1年間子どもたちの指導を進めていった最後に指導要録というものを作成しなければいけませんのでパッケージとして入れさせていただいております。今年度から本格的に動き出したという状況で、今その検証を進めながらやらせていただいているところでございます。そういうものをベースにいたしまして、商品名でいいますとC4thになるのですが、その中で今言ったようなパッケージ毎になっておりますので、そういったものの契約をさせていただいております。これらがうまく活用されていけば、さらに他のパッケージも、例えば通知表とかについても検討を進めていきたいと考えているのが校務支援システムでございます。

専門スタッフ等の配置につきましては、現在県からの配置ですけどスクールカウンセラーとか、市で配置していただいているものと特別支援教育支援員や語学相談員になります。今後、考えているものとしましてはスクールソーシャルワーカーといった専門的な社会福祉士という資格を持っていて、子ども

たちの不登校や問題行動等の対応のアドバイザーになっていただくとか、ということの配置も今考えております。

◎市長

家庭との関わり合いの点についてはどうでしょう。

●学校教育課長

教育というのは、子どもを育てていくということで学校だけでできるものではございませんので、学校と保護者、地域社会が連携を取ってというようなことを考えております。市長さんもおっしゃっていただいておりますけど、地域とのコミュニティといいますか、そういった形での学校を見守る体制づくりも今後進めていきたいと考えております。

○委員

非常に具体的な話でこれから先、今の支援システムも含めてどれくらい削減ができて効率が上がるのかについては、まだこれから進めていただければいいのではないかと思います。

実際に先生が、本当に注力をしなければいけないもの、授業も含めてですが、そこ以外のところの欠けている時間が昔に比べてすごく膨れ上がっているのではないかと思います。要因分析等もされて、どの時間が一番多くあってこれが全然減っていかないなということの対策で校務支援システムができたのだと推測できます。どこまで何ができるかということになってくるかと思っておりますので、現状を保護者にも知っていただく機会が大事じゃないかと思います。学校の先生というのは、これだけいろいろなことがあって、こういう状況の中でやっている、それこそ非常に強い使命感を持ってやってもらっているのは分かるのですが、多様な家庭環境がありますので学校にお願いをしないといけないところも多々あるとは思いますが、それがあいながらも理解をしながら一緒にしていかないと、先生も一個人の人間なのでその先生がしっかりしてもらわないとこれからの教育というのが明るく開いていかないと個人的に思いました。

◎市長

企業を経営してみえるお立場から生産性の向上という言葉もありましたが、教育の現場にとって生産性の向上とは一体何かという問題はあると思います。ものをつくることと必ずしも全てが一緒ではないだろうとは思いますが、やはり働き方の改革や教育技術のイノベーションを進めていかないと、なかなか多忙化は解消しないのではないかと私は思いますので、先程の委員の提案によく耳を傾けていただきたいと思います。

## ○委員

教員の多忙化解消という問題ですけど、一つ大事なのそれはによって子どもたちの教育環境が逆に支障が出るようなことになってはいけないと、これを頭においてどう直していったらいいのかということ視点の一番大事なところにもっていくべきだと思います。それで何ができるかということですが、現状考えますと、やる事がどんどん増えてきているようにみえます。時間的に早く帰れと言われても帰れない現状です。どこから手を付けたらいいのかですけども、一つは中学校の先生方でかなり多くの方が多忙化の様子が見られます。主な要因として先程部活動が挙げられましたが、併せて生徒指導の件、これも例えば子どもが夜どこかに行ってしまった場合もすぐ連絡して動き回るということが必要だと思います。従いまして、時間を限っていつからいつまでというようなことはなかなか中学校の先生は難しいのではないかと思います。ある程度、時間がかかっていますと計れるようなもの、例えば土日の部活動ですと午前なら午前、午後なら午後の4時間やったということであれば、必ずかどうかわかりませんが月～金の中でどこか部活動で指導した4時間分を何らかの形で早帰りをできるような機会、毎週は無理かと思いますが月に1回でもそういう時間をつくっていただくとか、できるところから少しずつ時間休を生み出していくことが必要なんじゃないかと思っています。

もう一つは、隣の岐阜県の例ですが、文科省から多忙化の解消を受けまして具体的に早く帰しましょうと、8日は全て18時以降は学校にいないように指導していきますということ7月1日からやってみえるそうです。どの程度できているかどうかはわかりませんが、強制的に学校からとりあえず帰っていただくという取組みで、あとは先生方の知恵を出していただいてどこでどんな仕事をやって学校におれない時間をあえてつくるのも一つの方法ではないかと思っています。

## ◎市長

学校現場をよくご存じの委員ならではのご意見かと思っています。

## ●学校教育課長

部活動につきましては、今のところ土日については特殊業務手当ということ4時間以上に対して3千円という措置がされておりますが、お金だけでは済むことではなく委員からご提案あったような形で割り振りのようなことができると思います。ただ、我々特殊的部分で平日はどうしても授業がございまして、その中で割り振りをしていくことは授業に穴を空けるような形になってくる部分もありますので、そういったところの課題を解決しながら進

めていけたらなと思っております。

#### ◎市長

生徒指導の話もありました。例えば、子どもさんがまだ家に帰ってきていないという、先生方、生徒指導の方を中心に遅くまで探しに出歩くこともあるかと思いますが、そういったことに対応する方策は何か考えてみえるのでしょうか。

#### ●学校教育課長

生徒指導は、いつどんなときに親御さん、もしくは地域の方から電話等の連絡が入るか分からないのが現状です。夜6時、8時にいなくなった、もしくは親御さんからそういった時間帯に電話なり学校へいらっしゃって子どものことで相談に乗ってほしいというような案件もいくつかあるのが現状でございます。そういったものに対し、我々も8時過ぎたらごめんなさいと言うことはなかなかできるものではございませんので、もしそういったことがあれば我々としては外へ出て行ったり、親御さん等への学校いらっしゃった方への対応をやらせていただいているのが現状でございます。何らかの方策をとというのは、今少し思い付かないのが現状でございますので、またいいお考えがありましたら教えていただけたらと思います。

#### ◎市長

まず一つ、平日の昼間にどこかで時間を空けて代わりに休む時間を取れないかという提案がありましたので、またご検討いただきますようお願いいたします。

恒川教育長、今までの議論をお聞きになってどうでしょうか。

#### ○教育長

委員の皆さまから貴重な意見や示唆をいただきましてありがとうございます。現場ではやはり教育の質を落とさない、これを念頭に置きながら教員の仕事の有り様を考えていかななくてはいけないのですが、もう一つ、いろいろな意味で保護者の方との理解度を深めていくこともすごく大事なことでと思います。いろいろな機会に働きかけをしていただいているのですが、保護者そして地域の方々に学校の様子を知っていただくことも大きな要素だと思いますので、ぜひそのような機会をつくっていただくような形で働きかけをしないといけないということがあります。

教職員の意識改革はとても大事だと思っておりますので、在校時間80時間超え、さらには100時間超えをしている先生を始めとする職場の中で、仕事としてどうあるべきかを今一度考えてほしいということを常々校長会議等でもお話をしているのですが、その中で勤務に関わるところで阻害するといえます



か、十分時間内に収まらないような仕事になってしまう要因を探り出して除きながらやれることからやっていきたいと思っております。ただ、一番市長さんにもお願いしたいことは、やはり人の配置がとても重要だと思っておりますので、都市教育長会を始めとして機会あるごとにいろいろな場所でお話をさせていただくのですが、まず人を配置していただくことが一番いいのかなと思えます。現場を大事にしていくためには、先程の委員の話もそうですが、人がいれば教員も休んでもらえることができますので、関係機関、団体等と一緒に国、県へ働きかけをしていくということではいろんな立場からご支援いただけるとありがたいなと思えます。とても貴重な意見ありがとうございました。

◎市長

恒川教育長のお話はマンパワーが必要だということで、マンパワーを市独自で配置しようと思えば、市が単独で予算をつけなければいけないところがあるわけで、なかなか全てがというとそうではないかも分かりませんが、今日の議論を聞かせていただいて、また来年度以降そういったことも考えていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

それでは、「(2)新学習指導要領について」、事務局から説明をお願いします。

●学校教育課長

(別添の資料により説明)

◎市長

ただいま事務局から説明がありました。ご意見がありましたらお願いします。

○委員

早速平成30年度の来年から、5～6年生については(外国語教育を)年間50時間実施するわけですが、これに伴う教員の配置は可能なのでしょうか。中学校から小学校の先生へなっていただく方が余裕あるのかなと現場にいた人間としては心配しております。

●学校教育課長

非常に心配はしております。目標としては先程申し上げたように、できれば移行措置を入れて50時間ということになっておりますので、時間数が増えますので何とか各学校で先程申し上げたような形で非常勤の講師を配置するか、小学校の中でも英語の免許を持っている先生が何人かみえますので、そういった方で授業へ対応するというを手探りの段階で行っているのが現状でございます。

○委員

現在、大里東小学校で先行的に英語教育をされていると思いますが、扱う教材については今ある資料からいくと文科省からくるようなことが書いてあるのですが、現在大里東小学校で行っている教材とのすり合わせについてはどうでしょうか。

●学校教育課長

外国語活動につきましては、昨年度までは稲沢東小学校のほうで研究を進めていただいております。今年度からは大里東小学校のほうで研究を進めていただいております。増える教材の部分については文科省のほうからホームページ上でいろいろな資料が出されてきているところがございますので、そういったものを活用しながら、また今まで稲沢東小学校等で研究していただいたもの、それから市内の校長会組織の中で外国語活動推進委員会を設けていますのでそういったところで進められてきたものを活用しながら来年度に向けて研究のほうを進めていただいております。

◎市長

かつて私も、大里東小学校は地元ですので見学に行ったことがあります。奈良に修学旅行に行くときに外国人がいたら話をしようという奈良プロジェクトをやっておりましたが、大変いい事業だと思って見学させていただいたことがございます。現場に沿った工夫が今後も必要だろうと思っております。

○委員

新たに新学習指導要領という形で出てきましたが、今までの我々がきた時代と随分違ったネット社会も含めたところへの対応も含めてだと思えます。今回道徳教育も新たに始まるということの中で、現状どこを見ていくかということ、子どもにどう教えていくかということになるかと思うのですが、今の子どもたちは目の前の、いわゆるゲームも含めてネット社会の現実に行きまわることが注目されてしまう今の時代の中で、これから先を見通せる力をつけていくことは非常に大事だと思います。その中で知識と技能の取得ということもありますけど、それを使って最後は知恵をどう働かせるのかということにつながっていくのではないかと思います。その中で、社会に開かれた教育課程ということで、学校と社会が理念を共有していこうと書かれています。これは一体どのような具体的な形で共有できるものなのか浮かばないので、具体的にそういうものがあれば教えていただきたいと思えます。

また、外国語教育いわゆる英語が始まるということですが、英語を取得するという目的もあるのですが、それ以外に日本としての母国語である国語、日本語というものをもっとしっかり学んで、より良く日本語の特徴というもの

を覚えていくということが優先的にあるのではないかと思います。国語の教育に関しては、現状の教育の方法以外に新たに何か考えているものがあれば教えていただきたいと思います。

◎市長

子どもたちに求められる資質・能力は何かというのを社会と共有するという表現がありました。それは具体的にどういうことを考えているのか。あるいは、英語教育とはいうものの母国語である国語の教育は大丈夫かというご心配もあると思います。そういった点についてどうでしょう。

●学校教育課長

社会に開かれた教育課程ということで明示されているわけですが、特にこの中では教育課程の実施にあたって地域の人的もしくは物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったり、学校教育を学校内に閉じずに目指すところを社会と共有、連携しながらというようなことが言われているところの一つかと捉えております。

それから小学校の外国語教育が表に出てきて言われているわけですが、前回委員からもご指摘いただきましたけど、やはり母国語である国語教育についても、言語能力についてもしっかりとやっていかななくてはならないということは捉えさせていただいております。こちらの内容について、大きな変化は文科省から出されているわけではございませんけれども、そちらも大切にしながら教科横断的などところも含めて外国語と併せて指導していきたいと考えております。

◎市長

私からも、実は国語教育は非常に大事で、特に読書が大事だということで朝の読書活動を各校で取り組んでみえると思いますけど、今後、総合的な学習の時間を削ってもいいという話がありまして、いろいろな点でそういったことに影響を与える、日本語で本を読む、特に小学校のときにこういった活動を今後も続けてやっていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○委員

私も委員のように、やはり日本人として日本の言葉で考えたうえで、外国語が入ってくるような授業に努力していただきたいというのが私の望みです。あまりにも英語の時間が多いように思えたのですから、また評価をするということはそれだけ重きになっているということですがけれども、今まで英語をいろいろやっていましたが使わなければ苦手意識だけ残っているのが私の経験でして、そういうことがないように。それと、外来語が多くなりまして、日本語の言葉

は外国の人にとって非常に読みにくいそうです。文法が違っているそうです。ヨーロッパは革命以降、全部一緒にどんな文章でも読めるそうですが、日本の場合、江戸時代、明治時代、現代と、外国の方は全部読めないそうです。そういう意味でも日本語の教育をきちんとしていただきたいというのが私の望みです。

#### ●学校教育課長

外国語教育を進める中で、日本語教育の特徴や良さをさらに認識する、気付き指導も併せてやることで国語教育の意識を高めさせるということも大切なことなのかと思います。それからご指摘いただいたように、英語が苦手になったり文法的な部分で間違いがないように、教科として評価を出していくことがありますので、先程申し上げましたように小学校の免許があれば教えられると言われておりますけども、私どもとしましてはできれば英語の免許を持った教員に指導をできるような体制を整えていけたらと考えております。

#### ○委員

先程の教員の多忙化と、文科省の指導だから仕方がないことではしょうけど、どんどん新しいことで先生方の負担がまた増えているのではないかとすごく感じます。道徳教育につきましても、今まで道徳の時間でやっていたものが今回教科になるということと、それと併せて同じような時期に英語が教科化されていくということで先生方の負担がまた増えるのではないかと心配をしております。総合的な教育の時間を割いてやる方法や新しく先生を配置していただけたらいいのではないかと思いますけど、先生方も英語の教育をすることにあたっては専門の英語の資格を持った先生方にとっては多少は対応できていけるとは思いますが、そうでない先生方にとってはそのところが負担になるのではないかと、また研修とかも増えるのではないかとということでもますます教員の多忙化につながるような気がして心配ばかりしております。やること自体につきましては、これから英語教育もとても大事なことになっていきますので、やっていかなければいけないと思います。

あと、学力テストなんかも、どちらかというとなら愛知県としてもあまり成績がよくないという話ですので、他の教科につきましてもしっかりと今後取り組んでいかななくてはいけないと思いますので、ますます大変になるかと思いますが、やっていただけたらと思います。

#### ◎市長

ますます多忙化する要因を文科省がつくっているのではないかと、私もそう思います。人的配置をしっかりと国がしてくれれば一番いいことではありますけ

ど、なかなかそうはいかないとなると難しいことだと思います。英語の専科の方を小学校にもという話がありました。しかしそれができなかつたら今みえる方で英語教育に関する技術も身につけていただくようなものを受講していただかなくてはいけないと思うのですが、そういった点についてはどうでしょうか。

#### ●学校教育課長

おっしゃるとおりで、新しいことが出てくればどうしても我々としては勉強せざるを得ないものですから、当然新しいことに取り組んでいくということで今までにないものを研修なりしていくということで大変なことではございますが、実を申しますと文科省を通して県のほうでは、平成28～32年度の5年間で中学校にいる英語免許を持った全教員が1回研修に参加するようにと、年間夏休みを中心に3日間くらい英語教員の英語力を高める研修が実際に行われています。平成28～31年度の4年間で小学校では各1名、英語の免許を持っている持っていないに関わらずに研修が組まれておりまして、英語の力をつけるということで今進められております。

委員から他の教科もということがありまして、先程も教育長が申し上げましたけど教育の質を落とさないように、我々にとってはそこのところは本務でございますので、そこを忘れずいろいろな新しいものについての対応を進めていきたいと考えております。

#### ◎市長

小学校の先生方、中学校で英語を選択してみえる先生方にも研修をしていただいて新しい時代に対応できるようにということでもありますので、それはそれで結構なことだと思っております。

今のような議論の中で新しい学習指導要領の円滑な実施に向けた教育長のお考えをお伺いしたいと思います。

#### ○教育長

英語が小学校に入るということで、先生方への負担、負担感が多忙化につながるのではないかと心配をしておりますので、それを除いてあげるには指導の有り様についてより分かりやすく研修を深めながらやっていかなくてはならないと同時に、実は、自分自身は、英語はただ小学校に入るだけでなく、今まで中学校の3年間義務教育でやっていたのを小学校の5～6年生から始めるということで、5年間で英語教育の中身をやるということは、かなり中身の濃いものに中学校もなるのではないかと推察しております。そういう中で英語の教育の有り様については、小学校の問題といいながらも中学校のほうも真剣に考えていかないと乗り遅れてしまうのではないかなと思います。

近々の内容について課題等をご指摘いただいたということですのでごくありがたく思っておりますが、今一番現場でやらないといけないことは、改訂の主旨の徹底といえますか、それと同時に計画的な移行措置の対応だと思えます。その中で、保護者だとか地域の協力を得ていきながら円滑に実施できるようにしていくことが求められているところだと思いますので、なによりも先程市長さんがお話されましたが、改訂を目指す目的というのは、難しい社会の中で志高く未来を創出していくための必要な資質・能力の育成を図るために社会に開かれた教育課程の実現ということになりますので、そういうことも十分踏まえていく中で、教員にとっては幅広い視点に立って授業改善等を図っていく中で学びの質を高めるところが必要ではないかと思えます。ハードルが高いところもありますけど、目指す主旨、内容については熟知していかないと、今求められている教育が実施できないのではないかと思いますし、それができないと地域の方や保護者の方々に不安感を抱かせてしまうこともありますので、ぜひ主旨の徹底と計画的な移行措置を実施して本格実施を迎えたいと思っております。貴重な意見を承る中で実際に教育の現場ではどうあるべきか話をしていながら指導していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

◎市長

道徳教育に対して、どのように進められるかの議論が定例教育委員会の中ですでにあったかも分かりませんが、この場でもう一度教育長先生のお考えをいただけたらと思えます。

○教育長

道徳については、昨日道徳の教科書採択のことで関わっていただいて教科の内容等をご承知いただいたかと思うのですが、基本的に今までですと、読み物資料を通して共感するだとか感じるだけでよかったことが、いろいろな考えに触れる、そして自分の考えを伝えるということで議論する道徳とも呼ばれております。中でも一番大事なのは自分と他との関わりをどう考えていくか、そして他人のよさを感じ、自分が主張していけないところは直していくという形への方向転換がされていく、そのために問題解決型学習や体験型学習などいろいろなパターンを柔軟に取り入れていくことだと思いますし、さらに今一番課題になっているいじめ問題についても道徳のあり方で少しでもそういう痛ましい事件が起こらないように、子どもたちの考え方の中でいじめを出さない・起こさない・しないということを十分に考えさせていくことの指導の大切さが今求められているということでご理解いただければと思えます。

◎市長

命の大切さを学んでいただけるよう、共感していただきたいと思います。特に私、今の議論を聞いておりました、教員の多忙化のこともそうでありまして、学習指導要領の改訂または移行、そして本格実施。保護者の方々の理解というのは必要だろうと思います。折に触れて、保護者の方々にもそういったことを理解していただけるような場を設けることが必要ではないかと考えますので、学校教育の皆さん、よろしくお願いします。

これで今日議題に挙がっていることは終了しました。次に「(3) その他」に移りたいと思いますが、委員さんから何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これで協議事項を終了させていただきます。

●教育部長

慎重なご審議ありがとうございました。続きまして、3. その他連絡事項について、事務局から説明申し上げます。

●庶務課長

今年度に2回開催を予定しておりますけど、次回年が明けまして2月頃に開催の予定をさせていただきたいと思います。また日程調整につきましては、改めてさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

もう一点、本日右肩に参考資料とあります総合教育会議の内容について、1枚ものの資料をお配りしております。文部科学省が全国の县市町を対象に調査をしました総合教育会議の協議された内容をまとめたものでございます。こういったものを参考にいただき、またこちらでも参考にしながら次回の協議のほうを開催させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

●教育部長

これをもちまして平成29年度第1回稲沢市総合教育会議を終わります。お疲れ様でございました。

— 閉 会 —